



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 204
March
2010

トピックス

関係機関との防災協力推進

JICA研修「総合防災行政」コースの実施

元客員研究員からのお便り

リュドミラ・ハルト
トゥニアン元研究員
(アルメニア)

ADRC客員研究員レポート

¶ アミルズディ・ハッシム研究員 (マレーシア)

¶ プリモン・プニャム研究員 (タイ)

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2010

●関係機関との防災協力推進

JICA研修「総合防災行政」コースの実施

アジア防災センター (ADRC) は、国際協力機構 (JICA) からの受託事業として、2010年1月15日から2月26日にかけて「JICA研修総合防災行政」コースを実施しました。この研修は、各国からの研修員が、日本の中央及び地方レベルでの防災の取り組みを理解することにより、総合的な防災対策に基づいた自国の防災計画の作成及び向上を目的としています。

研修には、ブータン、中国、コスタリカ、エルサルバドル、グレナダ、ハイチ、マケドニア、パキスタン、フィリピン、タイ、トンガ、ウガンダ、ベトナムの13カ国から17名が参加しました。

研修員は、中央・地方レベルでの日本の防災システムを学ぶとともに、水害、地滑り、地震などへの対策、学校防災教育、コミュニティ防災、マスメディアと災害、ジェンダーと災害、ライフライン防災、事業継続計画 (BCP) 等について講義を受けました。また、防災訓練への参加や、2009年に災害に見舞われた佐用町への視察、カエルキャラバンでのサポート、コミュニティラジオ局での講義及びラジオ番組への参加、兵庫県立舞子高校や神戸学院大学の生徒との交流を通じて、様々な日本の取り組みについて学びました。

研修員は日本の防災への取り組みに高い関心を示し、どの講義、見学に対しても大変熱心に参加し、研修の最後には自国におけるアクションプランを作成しました。2月26日に無事研修は終了し、研修員は帰国いたしました。

当研修実施にあたり、快く訪問等を受入れいただきました各関係機関の皆様には、厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



[六甲山にて]



[研修の様子]

●元客員研究員からのお便り**リュドミラ・ハルトウニアン元研究員（アルメニア）**

私は元ADRC客員研究員のリュドミラ・ハルトウニアンと申します。現在は、アルメニア国家地震防災研究所（NSSP）の地震観測所の主任として勤務しています。私は2006年1月から3月まで、ADRCの客員研修員として日本に滞在しました。日本での滞在期間中、日本の防災行政及び防災教育システムについて研究を行った他、日本で利用されている防災分野での高度な手法や技術についての知識を得ることができました。

数々のセミナー、シンポジウム、そしてトレーニングに参加したり、政府機関、学校、医療機関、防災ミュージアム等を訪問したりしました。このような訪問を通じ、教育ツールやマニュアルといった非常に有用な情報を手に入れることができました。現在このような資料は、アルメニアでの新しい戦略や計画、プログラムを開発する際に幅広く利用されています。日本での滞在期間中に学んだ日本の豊富な経験や意義ある教訓は、私の職務だけでなく、NSSP全体にとっても大変重要なものとなっています。

アルメニアに帰国後、私は日本で学んだことを活用することにしました。まずは、防災技術に関する知見を更に広めるために、NSSPスタッフのためのセミナーや発表会、トレーニングを開催しました。このような機会を通じて、日本の防災教育は私の国の学校へも紹介されました。

地震観測所のスタッフたちは、通常地震観測業務に加え、学生、学校の教員、地方政府職員、パラカール、タイロフ、メルザヴァン、グカサヴァン、ダラカルト地域の住民への教育も行っています。このようなトレーニングを行う際には、日本のツールやマニュアル、そして日本のコミュニティ防災手法が活用されています。

また、タウンウォッチングは、トレーニングの中に頻繁に取り入れられており、学生、指導者、住民も熱心に参加しています。このような活動を通じて、上述の地域住民が地震のリスクマップを作成し、リスクを軽減する方法を模索しています。

その他に、私は日本の防災について紹介するために、NSSPの事務所内に特別展示を作りました。またNSSPとADRCの間で実施された2回の共同プロジェクトにも参加しました。私は日本で得た教材や情報は、関連政府機関や、住民教育、建物の耐震化、救助関係者、消防、ダム建設、地滑り予防などの専門家と共有しました。

このように、私は皆の共通目標である自然災害のリスクを軽減するために日々努力をしています。最後に、私はこのようなすばらしいプログラムに参加し、防災知識を広げる機会を与えてくださったADRCと日本政府に感謝申し上げます。



【ADRCに滞在中のリュドミラさん】

●ADRC客員研究員レポート**アミルズディ・ハッシム研究員（マレーシア）**

皆さん、こんにちは。私はマレーシアから来たアミルズディ・ハッシムと申します。

マレーシアは、地理的に特有な領土を有しています。東南アジアに位置し、国境をタイ、インドネシア、シンガポール、ブルネイ、フィリピンと接しています。国土は南シナ海によってマレー半島とボルネオ島に分かれており、総面積32万9,847平方キロに人口2,800万人が暮らし

続き

ています。人口の57%をマレー人が占め、残りは中国人、インド人、ブミプトラ（先住民マレー人）とその他人種で構成されています。このように豊かな文化遺産を持つ複合民族国家、それがマレーシアです。

また、国家の安定と平和においてもマレーシアらしい特徴があります。国内での紛争や対立などないこの国で私たち国民は平和に共存しています。ナジブ・ラザク首相の掲げたワン・マレーシアのスローガンでは「政府は、『1つの国家、国民優先、即実行』という理念と姿勢に基づき、主要課題として政府改革プログラムを遂行することを表明する」と述べています。この考えは、異なる民族や宗教から成るマレーシア国民がお互いの文化を十分理解・尊重し、共に歩み、手を携えて取り組み、そして社会経済的・政治的安定面から、マレーシアのより良い未来を実現するために責任を共有するということです。

現在私は、マレーシア気象局(MMD)のマレーシア中央気象台(CFO)に予報課課長補佐として勤務しています。気象予報がマレーシア気象局サービスの主要な業務です。ペタリンジャヤ地区のマレーシア気象局本部にある中央気象台は、公共気象サービスの提供のため1日24時間体制で稼働している中央センターです。MMDはマレーシア科学技術革新省管轄の科学的な業務を行う部局の一つで、気象、気候、地震、水害に関連する危険性の早期警戒を発信する役割を担っています。わが国は、台風、大地震、火山などの自然災害からの影響を受けにくい地理的条件にありますが、その一方、ある地域や沿岸水域では、大洪水、強烈な豪雨、熱帯低気圧、異常気象、その他自然災害を引き起こすモンスーンによる豪雨の脅威から免れることができません。早期警戒システムは、このような洪水、鉄砲水、煙霧、その他自然災害の影響を軽減するため、防災に携わる各政府機関、特に国家安全保障会議、マレーシア国家警察、国家市民防衛局、灌漑排水局、環境局、その他関係機関などに貢献しています。

私はADRCの客員研究員として2010年の1月から4月まで日本に滞在しています。日本がどのように災害のリスクと共存しているのか、また総合的な防災政策(TDRM)の優れた実践でどのように知識や経験を積んでいるのかについて学びたいと思っています。この客員研究員プログラムを支援してくださっている日本政府とADRCに心からの感謝の意を表します。このプログラムでは、他のメンバー国研究員達と各国における防災業務の情報や経験、そして教訓を交換するための大変貴重な機会を提供してくれます。このような機会を存分に利用し、私が日本で学べる有益な防災関連情報や知識を、マレーシアの防災に関わる政府機関に普及していきたいと思っています。そして災害に強いコミュニティを構築し、ハザードに対抗できるコミュニティの能力向上を行っていきたくと思っています。

●マレーシアのカントリーレポート

http://www.adrc.asia/nationinformation_j.php?NationCode=458&Lang=jp&NationNum=16



プリモン・プニャム研究員（タイ）

私はタイの内務省防災局から参りましたプリモン・プニャムと申します、今年の1月から4ヶ月間、日本の防災システムについて学ぶため、客員研究員としてADRCに滞在しています。

タイは北緯5~21度、東経97~106度に位置し、ラオス、ミャンマー、カンボジア、マレーシアと国境を接した総面積51万3,115平方キロの国です。国土は大きく4つの地域、北部、中央

続き

部、東北部、南部に分かれます。タイの気候は、平均最高気温34度、最低気温23度と高温多湿です。人口は6,600万人、その内31.1%が首都バンコクに住む都市人口で、94%がタイ語を話す仏教徒です。

タイは洪水、地滑り、干ばつ、寒波、火災や暴風といった自然災害にさらされています。北部の山岳地帯では、鉄砲水、地滑り、土石流などを引き起こします。東北部は乾燥地域で、雨期（5月～10月）は鉄砲水や浸水、それ以外の季節（11月～4月）は厳しい干ばつや寒波にみまわれます。

中央部の広大な沃野では、雨期には河川の洪水、都市型浸水の影響を受けます。南部の西海岸の丘陵地と東の海岸平野では、鉄砲水、土砂崩れ、熱帯暴風雨、森林火災が頻繁に起こります。

現在私は、タイの内務省防災局研究・国際協力部に勤務しています。私の業務は自然災害・人的災害の管理システムに関する情報収集や研究です。日本は洪水対策においてもっとも進んだ国だと思います。その国で洪水対策を学べることは大変光栄であり、また日本で学んだことを本国での今後の取り組みに活かすことができると信じています。専門的知識と経験を得る機会を与えてくれたADRCに感謝いたします。日本での滞在は私の人生で忘れられない経験となることでしょう。

●タイのカントリーレポート

http://www.adrc.asia/nationinformation_j.php?NationCode=764&Lang=jp&NationNum=09



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。